

今まで以上に

「全日本に選出されたときは本当にうれしかったです。今まで以上にがんばろうと思いました」と振り返る浪岡さん。

浪岡さんは、ソフトテニスをしている両親の影響で、物心つく前からソフトテニスに親しんできました。幼い頃は水泳やピアノなどもやってみたかったと言っ浪岡さんですが、小学3年生の時に『登別ジュニアソフトテニスクラブ』に加入してから、ソフトテニスに打ち込んでいくことになりました。

「小学4年生の時にダブルスのペアを組んだ選手が、全国大会などを経験している1歳年上の人で、私よりずっと上手だったので必死に練習しました」。

練習を重ねていった浪岡さんは、現在、全日本アンダー14チーム女子選手に選出されています。1月末から2月初めにかけて行われた全日本の合宿では、同世代の人も含めて参加メンバーの技術の高さを感じたと言います。

「テニスが早く鋭角に強いボールを打ってくる人ばかりでした。そのようなボールを返すためには、今まで以上にフットワークを鍛える必要があると強く感じました」。



▲体の使い方を意識しながら練習に励む浪岡さん

合宿から帰ってきた後は、体の使い方や体幹を鍛えるトレーニングの時間を増やすなど、浪岡さんは、現状に甘んじることなく向上心を持って練習を重ねています。

充実した内容の試合をしたい

5月に『全日本シングルスソフトテニス選手権大会』を控える浪岡さんは、「勝つにしても負けるにしても、自分の力を出し切って楽しみたい」と言います。

「試合に勝つことよりも、内容のある試合をできることのほうがうれしいです。特に、格上の相手との試合で、粘り強くフリーを続けて1点を取れたときは本当にうれしいですね」。

自分より実力のある選手との試合が好きだと話す浪岡さんは、常に上を目指して、ソフトテニスに一生懸命取り組み続けます。



平成13年、登別市生まれ。14歳。

幼い頃からソフトテニスを始め、各種大会で優秀な成績を残す。4月には『北海道シングルスソフトテニス選手権大会』で、高校生以上の選手も出場する中、優勝を果たした。



KIRARI

なみ おか な な み
浪岡菜々美さん (片倉町)

ソフトテニスの競技人口は700万人以上とも言われ、その多くが中学生とされています。多くの競技者がいる中で、全国で20人しかいない『平成28年度全日本アンダー14チーム女子選手』に選出された選手が登別市にいます。

『登別ジュニアソフトテニスクラブ』に所属する浪岡さんは、ことしの初め、北海道ではただ一人、平成28年度の全日本アンダー14に選出されました。『北海道小学生ソフトテニス選手権大会』や『北海道小学生シングルスソフトテニス選手権大会』の優勝など数々の実績があり、ことしの5月には、奈良県で開催される『全日本シングルスソフトテニス選手権大会』に出場します。

今回は、ソフトテニスへの思いや5月の全国大会への意気込みなどを浪岡さんに伺いました。

**自分の力を出し切って
格上の人とも充実した
内容の試合をしたい。**